



先日、法事で帰省しました。久しぶりに両親兄弟が集まり、昔話に花を咲かせ、談笑していました。するといきなり辺りが暗くなり雨が降ってきたので、私はその雨を見ようと庭に出ました。ここ数年、帰省も少なくなり、帰省してもバタバタしていてゆっくり庭を見る時間がなかったことにあらためて気づきました。庭は両親の手入れが行き届いており、洗練された庭に心が洗われました。

私は庭の中心に位置するビニールハウスに足を運びました。そのビニールハウスの中には父が10数年前から育てている大菊がびっしり咲いていました。父は定年退職を機に大菊を育ててみることを決意しました。はじめは書籍などを参考にし、我流でやっていたそうです。しかし、上手くいかず、少しでも上達を早めようと知人の紹介で同好会に入ったそうです。会は20～30名の会員で構成されていて、入会した年の品評会でいきなり金賞を取ったそうです。二人でお酒を交わしたときにはいつも嬉しそうにその話をします(笑)。金賞だけでは飽き足りず、もっといいものを育てたいとの一心からビニールハウスまで手作りで作ってしまいました。

菊といったら法事などでよく使われる地味なイメージがありましたが、手入れ次第でこんなにも美しく咲くことにとても感動させられました。このビニールハウスの中には約40鉢の菊が育てられており、品種は20種類あるとのことでした。素人からみると5品種くらいまでの違いはわかりましたが、あとは同じに見えました。しかし、父は“全然違う”と勝ち誇ったように言っていました(笑)。

「桜島」「瀬戸の夕星」「聖者」「急流」「瑞鷹」etcと名前はさまざままで面白いです。名前を見た後に花を見るとそのように見えてくるから不思議です。

大輪を咲かせる11月の時期までに我が子を育てるように手間をかけていきます。三段仕立てという方法で、芽の先を摘心して1本の苗から3本の側枝を伸ばしていき、それを支柱で支える方法だそうです。5月の挿し芽から7月に鉢に植え、毎日夜10時くらいになると虫が付いていないかの管理をして、不要な茎や花は摘み取り、咲かせたい花に対して最大限に栄養を集中させていくそうです。あまりにも周辺知識が無さ過ぎて、書いている私もよくわからなくなってきましたが(苦笑)。

実家を後にし、自宅に着いた私は何となく自宅の庭に行きました。すると、植物の管理どころか、雑草が生えることも苦痛に感じる私は、半年前にコンクリートで埋めてしまった庭を見て、「花は綺麗だけど、やっぱり自分には向かないな！」と手入れのいらぬ庭を見て、ホッとしました(笑)。

